

# 射水市社会教育委員会会議の概要について

生涯学習・スポーツ課 生涯学習係

## 1 会議

日時：令和7年7月29日（火）午前10時00分～午前11時25分

場所：射水市役所本庁舎会議室401

## 2 出席者

【委員】 京角委員、曾根委員、稲垣委員、加治委員、石森委員、清水委員、松原委員、藤井委員、岡野委員  
(委員10名中9名出席)

【事務局】 金谷教育長、作道事務局長、星野事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長、佐藤学校教育課長、稲田学校教育課主査、金三津生涯学習・スポーツ課課長補佐兼文化財係長、明神スポーツ推進係長、北村生涯学習係長、兼岡生涯学習係学芸員

## 3 会議概要

### 【報告事項】

- ・令和7度コミュニティ・スクールについて

(内容)

令和7年7月現在までの取組状況について説明した。

- ・令和6年度社会教育主要事業の現況と成果等について

(内容)

社会教育の分野における14の主要事業について、令和6年度の取組状況、成果と課題を報告するとともに、今後の取組状況について説明した。

## 4 報告事項についての主な質疑・発言

### (1) 令和7年度コミュニティ・スクールについて

(委員) コミュニティ・スクールについて、県内の他市町村でも実施しているのか。

(事務局) コミュニティ・スクールは、文部科学省が導入を推進しており、全国で取り組んでいる。富山県は導入が遅い方であったが、県内市町村の中では、おそらく射水市が活動としては一番進んでいると思われる。

(委員) 射水市で進んでいる要因として、どのようなことが考えられるのか伺いたい。

(事務局) 一つは、コミュニティ・スクールを進める担当者が教育委員会にということ。もう一つは、地域振興会長やコーディネーターなど手を挙げていただいた方々の協力のおかげであると思っている。

(委員) 何校かはまだ未実施となっているが、今後の見通しを伺いたい。

(事務局) 学校支援ボランティアに関しては、現在市内18校で実施しており、未実施は、中学校2校である。中学校に関しては、ボランティアはいないが、コーディネーターが14歳の挑戦などのバックアップをしている。

(委員) 射水市の場合は、小学校、中学校ともに有効に機能しているのではないかと思っている。

実施に当たって、各学校や市の実態に合わせた形で、市教育委員会の支援をもらったと思っている。例えば自分の学校では、14歳の挑戦の事業所の確保や事業所への訪問などを、コーディネーターや学校運営協議会委員のメンバーにお願いしている。

今年度コミュニティ・スクールがスタートして2年目になるが、他市との比較という点でも、確実に進んでいると思っている。学校現場としては、無理なく、子どもたちのためにどのように運営していけばよいのかといったことを、これからも大事にしていきたいと思っている。

(委員) 学校のボランティアをしているが、登録して来られる方は、年配の方がほとんどという印象がある。これからは、保護者の世代などもっと若い方にボランティアを担ってもらわないと続いていかないと感じるが、どのように捉えているか伺いたい。

(事務局) 全くその通りである。保護者の世代として、PTAの役員の方は学校運営協議会委員になっており、協力を呼びかけている。少しずつ輪が広がっていけばよいと思うが、強制するわけにもいかず、声をかけて少しでも登録する方が増えれば嬉しいと思っている。

(委員) 職場で、子どもを持つ保護者にコミュニティ・スクールのお話をしますが、知っている人は少なく、保護者が参加できることなのかと言われる方もいる。1年に1回でも都合をつけて、学校に入ることは大事だと思うので、もっと知ってもらえたらいいと思っている。

(委員) コミュニティ・スクールだよりの回覧や、市報への掲載などが、自分のように学校と関わってない人間でも知る機会となった。まずそういう人がボランティアができるような働きかけも、各学校でやっていただけたらいいと思う。

また、コミュニティ・スクール推進会議の中で他にどのような課題が出たのか伺いたい。

(事務局) コーディネーターとボランティアとの連絡手段が一つの課題である。スマートフォンを使用することが非常に多いが、高齢の方でスマートフォンを持っていない、電話がつながりにくいなど、その他のツールの検討が必要であるという話が出た。

もう一つは、先生方とのコミュニケーションについてである。先生方は日中忙しく、打ち合わせの時間もなかなか取れないため、紙で書いて交換する方法をとるなど、非常に苦労している。

(委員) コミュニティ・スクールだよりは、市報と一緒に配布することができるか伺いたい。

(事務局) 班回覧している。保護者の方には、学校から印刷して配布することを検討したい。

(委員) 保護者の方も積極的にご参加くださいという一文が書いてあると、入りやすいと思う。

(委員) 子どもたちの活動の充実を図りたいという目的があるため、このような活動にご

協力いただける方はいらっしゃいますか、といった形の案内の仕方になる。小学校の色々な授業の補助や、校外学習の引率の補助など、大人の目が必要である業務内容がどうしても多くなると思う。

(委員) 一番自分事になりそうな地域住民である保護者の世代に、情報がうまく伝わっていないのはもったいないと思う。

(委員) 情報は伝わっていると自分は思っている。保護者も仕事をしており、なかなか参加できない方が多いという実態があると思う。ただ若い方々でも、年に1回でも参加してもらうよう声をかけていくような取り組みが必要であると思う。

(事務局) コミュニティ・スクールだよりを回覧しても、興味のある情報しかなか目に入っていない。学校に関わりたいと思っている方には目に留まって、手を挙げていただけたらと思うが、そうではない方にも伝わるよう、もう少し工夫して進めていく必要があると感じている。

## (2) 地域おこし協力隊事業について

(委員) 現在射水市では、地域おこし協力隊が何人おり、任期が終わった後、射水市に定住している方は何人いるのか伺いたい。

(事務局) 現在は、スポーツ推進コーディネーター、国際交流コーディネーター、移住コーディネーター、まちづくりコーディネーター、公共交通コーディネーターがおり、5人である。前任のスポーツ推進コーディネーターは、協力隊の退任後に起業し、主にスポーツを中心とした仕事をしている。

(事務局) 前任の公共交通コーディネーターは、射水市内の企業で働いている。

## (3) 児童健全育成事業について

(委員) 土曜日の開級について、以前は毎週開級していたが、現在は月1回の開級になっているところもあり、開級日は減ったことで困っている保護者や子どもがいるという話を聞いている。また、夏休みのお盆期間の1週間、今年は全部の放課後児童クラブが休みになり、行ける場所がないという声も聞いている。

なぜそのようなになったのか、また、全ての放課後児童クラブでの開級が難しいのであれば、土曜日は射水市として一か所で1日開級するという取り組みはできないのか伺いたい。

さらに、土曜日の開級も、保護者は午前だけ仕事なので、午前中だけ見てもらいたいが、土曜日に開級するなら1日開級する、という話も聞いている。その後に利用者がいないのに、支援員はいないといけない。なぜそのようなことになってるのか伺いたい。

(事務局) 土曜日に関して、基本的には、毎週開級をしているところが多い。ただし、家にいたいという子どももおり、最初は毎週開級していたが、利用者が少なくなり、開級日が減ってきているというのは聞いている。ただ、1人でも子どもがいる限りは開けている。1人の子どもを預かるだけでも指導員が必ず2名は配置しないとイケな

いということと、年間の開級日についての基準がある。子どもが半日で帰っても、支援員は1日いないとその基準に当てはまらないため、どうしても夕方まで開級しているという事情がある。また、お盆休みに関しては、ご指摘のとおりで、1週間ほど休みになってしまうので課題と思っている。ただ、お盆休みに仕事が休みの方が多ということと、支援員を2名以上配置しなければならないので、対応に苦慮している状況にある。

市として、例えば1か所に集めるということも考えられるが、基本的に放課後児童クラブは、その校区の子どもを受け入れる形にしており、要望などをお伺いし、検討の余地はあると思うが、現状では難しい。

(事務局) 各校区ごとにも事情が違い、それぞれの場所によっても課題はある。ただし現状では、原則は基準が決まっているため、それに従っていただくしかないが、市としては、色々な事情で開級時間を変化できるような見直しも行っている。各学級の事情や現状を踏まえながら改善していくしかないと思っている。また、年々支援員の確保が厳しくなってきた。1年間の開級日数及び時間は、一律のルールとして決めているため、どう見直すかというのは、今後の課題である。

(委員) 放課後児童クラブの開級にあたり、保護者のニーズと支援員の事情が合わなかったりするので、人数が少なかったら受入れが難しいということもあると思う。それを補うものの一つとして、射水市にはファミリーサポートサービスという支援事業があり、半日であればそちらに相談することも考えられる。

(委員) ファミリーサポートサービスを頼む保護者は少ないのが現状かと思う。

(事務局) さんさん広場や児童館を利用することもできる。ただ、児童館が利用者でいっぱいだという話も聞いている。市としても課題として捉えており、居場所確保に現在取り組んでいる。

(委員) 子どもたちの居場所のニーズは非常に高いが、十分に提供できていないという現状があると思う。今後の展望について伺いたい。また、もう1点、自分は普段ノートや引きこもりの方の支援をしているが、そういう方たちは、なかなかどこも繋がれない。保護者自身も、なかなか相談しにくい。そして、そういう声を出せない方たちが繋がれる場所が他にあるということも必要ではないかとも考えられるため、その2点について伺いたい。

(事務局) 展望について、市としては、主に大規模校と言われるような小杉小学校や大門小学校、大島小学校区などで、子どもの数に対して放課後児童クラブが足りないと認識しており、検討はしているところである。その中で、今年は、7月に大島地区でさんさん広場を一つ開設することができ、子どもたちの居場所ができたと思っている。課題としては、場所や人員の確保が一番難しい。現在の運営事業者にも伺っても、なかなか支援員が集まらず苦慮していると聞いている。もし場所があっても、運営する事業者が見つからない状況である。市としては、居場所確保に取り組んでいる。

また、引きこもりの支援に関しては、学校で悩みを聞いてもらえる相談員がいるので、まず電話をしていただければと考えている。

(委員) 人員の確保という点に関しては、自分達の次にやってくれる人はいるのかと話題になる。自分は、全国の勉強の場に参加する機会があったが、地域によって差があ

り、行政の方がしっかりとそういう場に入っている自治体は、生き生きとやっている印象がある。一方で、地域のために何か役に立ちたいという思いで来ている方が多く、今後若い方たちが携わっていくのは厳しい時代になっていると思う。その中で、善意や思いだけに頼ってよいのかという話題になる。射水市はいち早くコミュニティセンターという形にして、指定管理という形を取り、メリットもあると思うが、それで不十分な点を今後考えていかないと、継続性に乏しいと感じるが、どのように考えているか伺いたい。

(事務局) 現在、放課後児童クラブの中でも今後の継続性を心配をする声も耳にする。市としても、色々な運営主体が参入できるように、引き続き検討していきたいと思っている。地域の方々のご協力を得られれば一番いいが、それに加えて別の手段もサービス提供の一つとして検討しており、全国展開している事業者や民間で開設や運営をしたいという方々がいれば、積極的に話を聞いていきたいと思っている。

#### (4) 文化財保存事業について

(委員) 文化財で地域や自分の歴史を知るという点で、非常に重要な事業だと思っている。その中で、出前講座を今後も活用できたらいいと思った。ただし、非常にお金のかかることが多いような気がする。特に、新湊では、映画の舞台などになっているため、全国的にも知名度が高く、クラウドファンディングやふるさと納税で大々的にお金を集めることもできるのか伺いたい。

(事務局) 文化財の関係については、維持管理に非常にお金がかかる。今ある文化財を修理していくとなると、新しく作るよりお金がかかり、人件費の高騰などで、修理や維持管理に苦勞している現状がある。また、クラウドファンディングなどについては、文化庁などもそういった資金の集め方を推奨している。現在、新湊地区の曳山については、観光協会や市民プロジェクトなど様々な団体が、県の補助などで試行的に有料観覧席を設置する等、文化財を活用しながら、外部から資金を集め、保存活用に回していくという循環体制を作り出していき動きが見られている。ただ、すぐどのような効果が出てくるかはわからず、気の長い活動にはなると思うが、今後はそういった部分も注視しながら進めていかなければいけないと思っている。

(委員) 最近、ふるさと納税で、様々な自治体で面白い取り組みをしている。例えば発掘や体験を返礼品にするなど、人材確保の手段にすることも考えられる。

#### (5) スポーツ推進事業について

(委員) 部活動の地域移行について、現状を伺いたい。

(事務局) 部活動の地域展開については、令和4年度から取り組んでいる。全部で25の文化部、運動部の部活動がある。令和6年度までで、9つの部活動、休日については地域クラブ活動として活動している。今年度、残りの部活動を、休日について地域展開することとしている。休日に活動していない文化部は地域展開しないので、最終的には16の部活動、2つの文化部活動と残りの14の運動部活動は、休日について

は、地域クラブ活動として活動する。しかし、例えば現在、全国中学校の選手権大会でも、学校の部活動として大会に出ているところもある。現在はちょうど移行期で、整理しながら進めているという状況である。

(事務局) 地域に展開すると、学校部活動ではなくなるので、今度は指導者の協力を得たり、地域クラブの中で子どもたちを育てていくという取り組みに変わっていく。現在移行期なので、どのような方法がよいのかということ話し合っているところである。

(委員) 幼児の体力向上支援事業で、幼児の体力を向上するための支援の一つとして有効かと思うが、指導者が来て、その指導者の設定した枠組みの中で体を動かすということよりも、体力向上をさせたかったら、子ども主体で、自然の中で遊ぶと体力が向上するという色々な研究データが出てきている。例えば、そういう方向性の支援事業も検討していただきたい。せっかく射水市は自然が豊かにあるので、それをうまく活用して、子どもたちの自然遊びが豊かになることで、体力も向上し、非認知能力も向上し、良い循環が生まれると思う。自然の中で遊ぶことは、保育士自身がそのように遊んだ経験が少なくなってきたり、園だけではできないので、行政として予算をつけて支援するようなことをしたらよいと思う。

(事務局) ご意見を踏まえ、体力向上に繋がるような取り組みを検討していきたいと思う。